

MEXCBT を活用した中学生向け地震・津波防災 e ラーニング教材の  
掲載用コンテンツ等制作業務公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨

項 目		内 容
1	日 時	令和 8 年 3 月 26 日 13 時 30 分から 16 時 30 分まで
2	場 所	県庁本館 3 階 本館 301 会議室
3	出席委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理監危機管理部長（委員長）</li> <li>・ 危機管理監危機管理課長</li> <li>・ 危機管理監みんなで減災推進課長</li> <li>・ 危機管理監消防保安課参事</li> <li>・ 教育委員会事務局学びの变革推進部義務教育指導課教育指導監</li> <li>・ 教育委員会事務局学びの变革推進部豊かな心と身体育成課教育指導監</li> </ul>
4	議 題	MEXCBT を活用した中学生向け地震・津波防災 e ラーニング教材の掲載用コンテンツ等制作業務の企画提案内容の審査
5	担当部署	危機管理監みんなで減災推進課
6	開催方法	参集（Web 併用）
7	議事内容	<p>1 審査方法 提案された企画提案書を基にプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。</p> <p>2 審査結果 (1) 審査対象者（参加資格確認申請書提出順） A 社：株式会社ニュースコム B 社：TOPPAN 株式会社 中四国事業部 C 社：株式会社エデュケーショナルネットワーク D 社：株式会社 NHK エンタープライズ</p> <p>(2) 審査対象者の評価値 審査対象の評価値については、別紙「公募型プロポーザル結果一覧」及び「評価基準に基づく評価項目別の総合値」のとおり。</p> <p>(3) 最優秀提案者及び選定理由 株式会社 NHK エンタープライズ（D 社）</p> <p>3 各委員の主な評価・選定理由 (1) A 社  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島データ等を多く使い、生徒が自分ごととして考えるための工夫が見られる。</li> <li>・ 各シーンに問いを作ることで、生徒に思考を促し、知識の定着を図ろうとしている。</li> </ul> </p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体の動画制作業務の受注実績が豊富であり、そのノウハウを活かした教材制作が期待できる。</li> <li>・ 企画提案書作成要領と異なる単円で提案書が作成されており、委託した際に、専門家の意見の反映等、事業が適切に実施されるか不安が残る。</li> <li>・ 演習問題の解説が文章中心であり、文字強調等もなく、中学生によって大切になるポイントが分かりにくい。</li> <li>・ 生徒が興味を持って取り組むための工夫は見られるものの、不足している。</li> </ul> <p>(2) B社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャラクターがポイントとなることを解説するなど、中学生にとって親しみやすく、理解しやすい工夫がされている。</li> <li>・ 動画によるプレゼンテーションがあったため、成果品がイメージ可能。</li> <li>・ 活動をアイコンで明示したり、イラストでポイントとなる部分を赤丸等で強調したりする等、生徒が直感的に理解して学べるデザインになっている。</li> <li>・ 文部科学省が示す内容を根拠にしているので分かりやすい。</li> <li>・ 教材制作の実績が多くあり、動画についても AI や脳科学を活用した作成をすることにより、適切な e ラーニング教材の作成が期待できる。</li> <li>・ 独自案のスケジュールについて、実現可能性に疑問が残る。</li> <li>・ 小学校から中学校への橋渡しについての説明が具体的でなく、不明瞭だった。</li> <li>・ キャラクター設定にオリジナリティがある点は良いが、イラストやキャラクターが中学生向けというよりは小学生向けのように思える。</li> </ul> <p>(3) C社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材のターゲットの分析がしっかりなされており、中学生の発達段階に合っている。</li> <li>・ コンセプトが目的に合っている。</li> <li>・ 演習問題について、ユニバーサルデザインの視点で制作されており、ポイントも分かりやすく、生徒の多様性に対応できるデザインとなっている。</li> <li>・ 動画（アニメーション）作成経験が乏しい印象及び、防災教材の制作実績がないという点で不安は残るが、教材の制作実績は豊富である。</li> <li>・ コンテンツで訴える内容の充実は認められるが、情報を詰め込みすぎており、生徒のスムーズな理解につながらないことが懸念される。</li> <li>・ プレゼンテーションでの説明が理念中心であり、抽象的で具体性を欠くため、成果品のコンテンツがイメージしづらい。</li> <li>・ アニメーション画像が少しシンプルすぎる。もっと中学生を惹きつけるようなものがあるとよい。</li> </ul>
--	--	--

		<p>(4) D社</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 映像制作や教材制作の実績が極めて豊富である。</li><li>・ 写真や映像について、豊富な素材の蓄積が認められる。</li><li>・ ニュース映像等を用いた臨場感のある教材を制作することとしており、生徒の関心を惹く教材制作が期待できる。</li><li>・ 社会科、理科、家庭科等の教科との結びつきが意識され、単発学習に終わらない工夫が可能になる期待が持てる。</li><li>・ 作成技術のレベルの高さを感じる。</li><li>・ 演習問題の解説において、重要な点を赤字で強調しておりポイントは分かりやすいが、文章が中心となっており、直感的な理解が難しい。</li><li>・ 特別支援教育の視点から、学習支援上の配慮、色覚特性への配慮が弱く、多様な生徒への対応が難しい。</li></ul>
--	--	--